

園児たちの楽しい園芸体験 ～大葉やトマトの苗もたくさんいただきました～

ミード保育園 保育士 山下 里奈

ミード保育園では、5歳児が中心になって、野菜などの栽培を行っています。毎年、春になると、ボランティアの石蔵さんが、苗や土の準備をし、子ども達と苗植えや水やりなどを行って下さっています。先日も、さつま芋と里芋の苗と一緒に植えさせてもらいました。

「苗は、横向きに植えよう。」「土のお布団をかけてあげて下さい。」など、作業内容を教えてもらった子ども達。「はい！」「出来るよ！」と返事は良いのですが、根が土から飛び出していたり、詰めて植えてみたりとなかなか上手くいきません。石蔵さんは「よし。それでいいよ。」と言いながら、そっと修正してくれます。

「今度は、水やりをしよう。お芋は、初めにたくさん水が必要なんです。みんな頑張って！」と言われ、今度はひたすら水運び。「疲れた！」と言う声も上がりますが、「まだまだ！お芋が上手く育たないよ。」と、お芋にとっての水の大切さを伝えてくれました。

子ども達にとっては、普段味わえない貴重な体験。便利な世の中になり、お金を出せば、何でも簡単に手に入る時代だからこそ、自然に触れ、自分の力で育てて、その有り難さを感じる経験は大切だと思います。毎年、自分達で育てた食べ物には、愛着を感じ、美味しい！と喜びを持って食べる姿が見られます。園だけではなく、地域の方にも助けられ、子ども達と共に、全ての人、物に、感謝の心を忘れず、過ごしていきたいと思います。



(園児と一緒に苗を植えてくださっている石蔵さん)



石蔵さんには、大葉やトマトの苗もたくさんいただいています。全てミード社会館を利用される皆様や職員で分けさせていただきました。本当にありがとうございました。大切に育てて、美味しくいただきたいと思います。



ミード社会館からのお知らせ

★ 昨年実施し、皆様からご好評をいただきました「ミードフェスタ」は、2020年度につきましては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、中止とさせていただきます。楽しみにして下さっていた皆様にお詫び申し上げます。

訃報 安らかなる眠りをお祈りいたします

- | | |
|------------------|----------------------|
| ・千東 和弘 様 (享年73歳) | ミード社会館 前理事 |
| ・胡子 重晟 様 (享年85歳) | 大阪コミュニティワーカー専門学校 元校長 |
| ・吉塚 宏子 様 (享年83歳) | 習字クラス 講師 |
| ・西畑 邦夫 様 (享年72歳) | 大阪コミュニティワーカー専門学校 事務局 |



一般寄付・後援会・ボランティア基金のお願い

皆様から頂戴しましたご寄附は、在宅ケアサービスの充実、介護予防事業の充実、ミード社会館本館老朽化による補修工事のための積み立て等、大切にに使わせていただいております。また、ボランティア基金は、カフェとまり木の運営他、ボランティアの方々のためにに使わせていただいております。

社会福祉法人キリスト教ミード社会館

後援会会長 金津 博直
理事長 岩佐 美奈子
館長 吉岡 健一

寄付金・後援会賛助会員費・申込口座名

会費 年額 1口 5,000円(何口でも可)

郵便振込口座 00900-2-47186

加入者名義 社会福祉法人キリスト教ミード社会館

皆様方からのご協力、お待ち申し上げております

(編集制作：前田)



ミードだより

No.155



2020年7月1日

題字 金津 博直

編集・発行

社会福祉法人
キリスト教ミード社会館

大阪市淀川区十三元今里一丁目1番52号

☎ (06)6309-7121 FAX (06)6309-7123

「生活を支えること、命を守ること」

在宅福祉部統括副部長 吉井 要



私は、宮原センターからの異動により、2020年4月から本館ミードデイサービス兼在宅福祉部統括副部長として勤務しております。ミードデイサービスには以前勤務をしておりましたので、13年振りの復帰となり、新鮮な気持ちと懐かしい気持ちが入り混じりながら毎日勤務しております。

ところが、復帰したのと同時に、新型コロナウイルスの感染が都市部を中心に急速に進み、4月7日には緊急事態宣言が出されるという大変な状況となりました。それとともに、ミード社会館の全職員も、その対策や対応に追われるという毎日が始まりました。手指のアルコール消毒やうがいはもちろんのこと、「三密」を避けるための対策など、職員もご利用者もお互い「移さない」「移らない」ために、最大限に神経を使いながら現在も業務にあたっています。

ミードデイサービスも、「三密」を避けるために、苦渋の決断でご利用者の人数制限をおこなうことにいたしました。この旨をご理解していただくため、ご利用者、ご家族に説明をする話し合いの中で、「仕方がないけど残念です」「せっかくいつも楽しみにしているのに」「そんなにデイサービス休まなあかんの」など、残念に思う声をたくさん頂戴いたしました。感染が拡大し、人数制限の対策を始めた当初は本当に大変な状況になり、どうしていけないんだろうという不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、このような皆様の声を聞いていると、「これだけデイサービスを楽しみにしてくださっている」「ご利用者にとって、ミードデイサービスはとても大切なものなんだ」ということに改めて気付かされたのです。この皆様の思いに、私たちは応えていかなければならない、不安な気持ちを振り払い希望を持って前に進

んで行こうという気持ちになってきたのです。

新型コロナウイルスと最前線で戦っているのは、もちろん現場の医療従事者の方々です。その大変さを思うと、本当に感謝の気持ちしかありません。しかしながら、私たちが働く介護現場も、ご利用者やそのご家族の生活を守り支えています。それは、命を守り支えることと同じことだと思っています。

幸いにも、社会館やデイサービスの中で、これまで感染者はおひとりも出ませんでした。そして、6月に入ってから人数制限も解除し、ほぼ通常のデイサービスの状態に戻ってきています。これは、ご利用者とそのご家族のご協力や努力の結果であり、また、スタッフ一人ひとりが必死に対策に取り組んできた結果であると思います。

これからも、「新しい生活様式」を実践しながら新型コロナウイルスの感染対策は続いていきます。日々私たちは、高齢者の生活、命を守り支えているという自覚を持ち、認知症であっても、障がいをお持ちであっても、そ



(デイサービスに来られたご利用者に付き添う様子)

の方らしい当り前の生活を続けていけるように、これまで以上にご利用者のお気持ちに寄り添っていききたいと思います。

●ミード保育園

ミード保育園 保育士 寅井 敬子

新型コロナウイルスが流行し、3月、4月は暗いニュースばかりで気が滅入っていましたが、少しずつ今まで通りの生活に近づいていることを嬉しく感じます。しかし、私たちの生活は大きな変化を余儀なくされ、ミード保育園でも色々な工夫をしています。

緊急事態宣言が発令され、幼稚園、小中高校等は休校の中、保育園は特別保育に切り変わり、三密を避けるために沢山の方々にご協力をいただきました。職場に申し入れて調整して下さった方々、在宅勤務で仕事をされながらも家庭で保育して下さった方々もいます。その中でも育児休暇中の方々には長期間のご協力をしていただきました。そのおかげでミード保育園も大変な時期を乗り越えることができました。誠にありがとうございました。

現在は自粛生活が緩和され、長い間休んでいた友だちが登園したことで、子どもたちの笑顔や会話が増え、活気が戻ってきました。といっても、まだまだコロナ対策は必要です。幼児クラスは毎日、マスクを着用し、手洗いやうが



いを徹底しています。集まって挨拶や活動をする時は今まで馬蹄形に座っていましたが、間隔を空けて同じ向きに座り、食事の時も向かい合わせには座らず、会話はできるだけしないようにしています。換気をしっかりと行い、午睡時も狭いスペースの中、できるだけ顔を離し、分散して眠るようにしています。乳児クラスも間隔を開けて生活をするようにし、玩具の消毒をこまめに行っています。しかし、乳児クラスではマスクは着用できず、スキンシップが大切であることで、より注意が必要となります。これから、プール遊びも始

●ミード宮原デイサービスセンター

ミード宮原デイサービスセンター 管理者 白髭 薫

昨年末から瞬く間に世界各地に広まった「新型コロナウイルス」。半年が経った今も収束の見通しが立たず、私たちは以前のような「普通の暮らし」とは程遠い不自由な生活を強いられている状況の中にいます。その「不自由な生活」は、宮原デイサービスの日常にも大きな変化をもたらしました。恒常的な人手不足と年度替わりというタイミングの悪さでしたが、本館からの助っ人や新年度からの新しいスタッフを加え、宮原デイに新しい風が吹く中で、スタッフ一同「コロナウイルスに負けるな!!」と奮闘しました。何とか「密」を避けようと、ご利用者やそのご家族に協力していただき、「利用日数制限」をかけて利用人数を1日20名までにしました。そして、ご利用者には手洗い・うがいの徹底、マスクの着用、体温測定をお願いし、スタッフは車両やデイサービスフロアの消毒など、朝夕まで感染予防対策に追われる日々が続いています。その中でも特にここを砕いているのが「マスクの着用と手洗いの徹底」です。若い健康な人ですら苦しいマスク、ご利用者にとっては不快以外の何物でもありません。ふと気付けば、ある方はアゴに、また他の方はポケットに、また別の方はアイマスクに変身と、マスクを探して着けていただくようお願いすることが日に何度かあります。手洗いについても、指先をチョット濡らすだけで終わる方もいらっしゃるの、一緒に手洗いをすることでしっかりと洗っていただくようにしています。そして、予防策を皆様にご理解していただけるように、マスク着用の徹底や換気、手の洗い方などを紙に書いて壁に大きく貼りだしました。その後2ヵ月が経ち、ご利用者にも予防策が浸透してきているようです。今では、ご利用者同士で、「手え洗ったかあ?」「ハイ!消毒」「マスクしいやあ」と声を掛け合われるようになっています。

これから先も予防策を実践しながら、ご利用者と共に新型コロナウイルスと戦っていこうと思います。

(デイサービスで手作業をされるご利用者)



私たちは
みんなで力を合わせて
皆様の生活を
守り支えます!

●大阪コミュニティワーカー専門学校

大阪コミュニティワーカー専門学校 1年生担任

吉岡 真由美



(ホールを使つての分散授業の様子)

今年度は、全学年で133名の学生が在籍し、9か国(インドネシア、韓国、スリランカ、中国、日本、ネパール、ベトナム、香港、ミャンマー)から集まった学生が、介護福祉士になるための勉強をしています。6か国から52名の新生を迎えましたが、新型コロナウイルス感染拡大の猛威を受け、現在も1年生8名、2年生2名の学生が日本への入国ができず、学校に登校していません。4月3日に予定していた入学式は中止となり、4月2日と3日に2グループに分散しての入学オリエンテーションを行いました。

4月6日から初めて全員が揃い授業が再開された矢先に、世の中の動きが自粛へと向かい、学校も休校となりました。1年生は自己紹介をただけで、仲間作りも出来ないまま異国の地での在宅学習をしなければならなくなりました。日本にいては危険なので、母国に帰ってくるように言われるなど、心配の声がたくさん届いていましたが、学生たちは不安の中で課題学習をし、教師も課題作りや初めてのメール課題、映像授業配信に取り組んできました。各学年で三密を回避するための分散登校日を設け、各学年の中でも分散して繋がりを絶やさぬようにしてきました。登校時はマスク着用、検温と手指消毒、使用物品消毒を必ず行い、5月21日に緊急事態宣言が解除されてからも継続実施しています。

6月1日から受講再開となり、通常90分授業ですが、途中換気休憩を5分間とるようにし、各教室に手指消毒用アルコールを常備し使用を促しています。1年生は、前年度まで日本語学校などに通っていましたが、今年度から我が校に通う事となり、勉強は専門用語が多く、難しい日本語での授業に必死で取り組んでいます。生活面では引越しやアルバイトを始めるなど新しい環境を整え、リズムを作っていく必要があります。コロナの影響での2ヶ月の休校は、生活を組み立てていくうえで中々の痛手でしたが、これからはコロナとの共存を考えながら前へ進んでいくしかありません。

2年生と3年生は、学業と介護施設でのアルバイトを両立しているの、休校中も介護現場で働いていた学生や、自粛に伴い現場の人数制限などで勤務日が少なくなった学生もいました。各々の環境の中で踏ん張って頑張っています。

予想もしなかった新型コロナウイルス感染拡大の影響は、様々な形で学生に大きなストレスを与えています。私たち教師は、学校で授業を行うのと同時に、学生たちの精神的な支えとなり、ストレス軽減のためにできる支援を行っていきます。そして、1日でも早く未入国の学生が日本に入国し、全員揃って勉学に励むことが出来るように強く願っています。皆様も学生を見かけましたらお声を掛けていただき、ミード社会館、地域の中で共に成長させていただければと思います。



(登校時に検温と手指消毒を実施している様子)

Special Thanks

赤い羽根共同募金より配分金を頂戴いたしました



2019年度も「介護予防教室運動プログラムの充実とリーダー養成事業(ボレボレ倶楽部)」への取り組みに、配分金76万円を頂戴いたしました。いただきました配分金は、ボレボレ倶楽部の体操に必要な備品の購入や運営資金に使用させていただきました。この赤い羽根募金の事業をご理解いただいたうえ寄付してくださった多くの方々のお陰であると心より感謝しております。本当にありがとうございました。